

第3章 医師・歯科医師・薬剤師統計

1 医師

令和4年末現在の医師の届出数は2,153人で、前回調査時の令和2年から45人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は2,024人で前回に比べて30人増加し、総数の94%を占めた。介護老人保健施設の従事者は35人で前回と比べ5人増、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は60人で前回に比べ1人増、その他の者は29人で前回に比べ8人増であった（表4-1）。

表4-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和4年	令和2年		令和4年	令和2年
総 数	2,153	2,108	45	100.0	100.0
医療施設の従事者	2,024	1,994	30	94.0	94.6
病院の従事者	1,400	1,403	△ 3	65.0	66.6
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	30	28	2	1.4	1.3
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	1,014	1,020	△ 6	47.1	48.4
医育機関附属の病院の勤務者	356	355	1	16.5	16.8
臨床系の教官又は教員	179	189	△ 10	8.3	9.0
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	177	166	11	8.2	7.9
診療所の従事者	624	591	33	29.0	28.0
診療所の開設者又は法人の代表者	438	434	4	20.3	20.6
診療所の勤務者	186	157	29	8.6	7.4
介護老人保健施設の従事者	35	30	5	1.6	1.4
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	5	4	1	0.2	0.2
介護老人保健施設の勤務者	30	26	4	1.4	1.2
介護医療院の従事者	5	4	1	0.2	0.2
介護医療院の開設者又は法人の代表者	1	-	1	-	-
介護医療院の勤務者	4	4	0	0.2	0.2
医療施設・老人保健施設・医療院以外の従事者	60	59	1	2.8	2.8
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	17	24	△ 7	0.8	1.1
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	6	5	1	0.3	0.2
行政機関又は保健衛生施設の従事者	37	30	7	1.7	1.4
行政機関の従事者	14	14	0	0.7	0.7
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	15	11	4	0.7	0.5
産業医	8	5	3	0.4	0.2
その他の者	29	21	8	1.3	1.0
その他の業務の従事者	1	5	△ 4	-	0.2
無職の者	25	16	9	1.2	0.8
不 詳	3	-	3	0.1	-

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く 439 人で 21.7%を占める。ついで整形外科が 125 人で 6.2%、精神科が 117 人で 5.8%、臨床研修医が 110 人で 5.4%、消化器内科（胃腸内科）が 107 人で 5.3%を占める。令和 2 年と比較すると呼吸器内科や消化器外科（胃腸外科）などが増加した。一方、最も減少したのは産婦人科、麻酔科、臨床研修医の 8 人減となっている（表 4-2）。

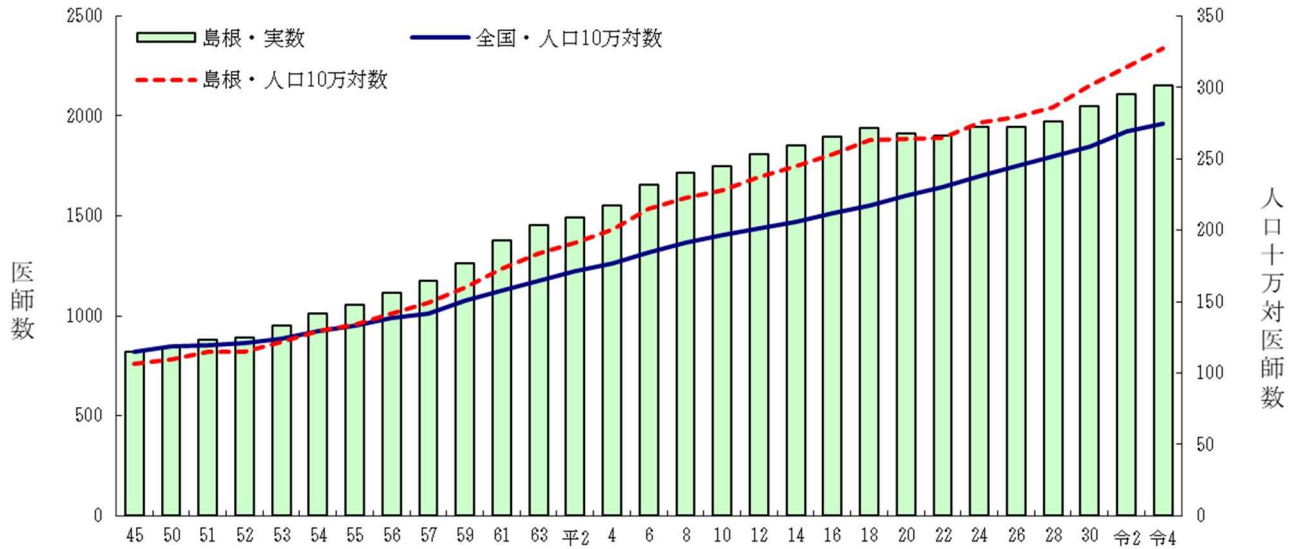
表 4-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

	令和4年		令和2年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医 師 数	2,024	100.0	1,994	100.0	30
内 科	439	21.7	420	21.1	19
呼 吸 器 内 科	49	2.4	40	2.0	9
循 環 器 内 科	65	3.2	66	3.3	△ 1
消化器内科（胃腸内科）	107	5.3	104	5.2	3
腎 臓 内 科	21	1.0	18	0.9	3
神 経 内 科	47	2.3	49	2.5	△ 2
糖尿病内科（代謝内科）	36	1.8	39	2.0	△ 3
血 液 内 科	14	0.7	19	1.0	△ 5
皮 膚 科	50	2.5	50	2.5	0
ア レ ル ギ ー 科	-	-	-	-	0
リ ウ マ チ 科	12	0.6	8	0.4	4
感 染 症 内 科	2	0.1	1	0.1	1
小 児 科	102	5.0	97	4.9	5
精 神 科	117	5.8	121	6.1	△ 4
心 療 内 科	3	0.1	2	0.1	1
外 科	76	3.8	78	3.9	△ 2
呼 吸 器 外 科	13	0.6	11	0.6	2
心 臓 血 管 外 科	19	0.9	20	1.0	△ 1
乳 腺 外 科	16	0.8	12	0.6	4
気 管 食 道 外 科	-	-	-	-	0
消化器外科（胃腸外科）	31	1.5	24	1.2	7
泌 尿 器 科	49	2.4	49	2.5	0
肛 門 外 科	-	-	-	-	0
脳 神 経 外 科	35	1.7	36	1.8	△ 1
整 形 外 科	125	6.2	128	6.4	△ 3
形 成 外 科	19	0.9	17	0.9	2
美 容 外 科	1	0.0	-	-	1
眼 科	69	3.4	73	3.7	△ 4
耳 鼻 い ん こ う 科	44	2.2	44	2.2	0
小 児 外 科	4	0.2	4	0.2	0
産 婦 人 科	62	3.1	70	3.5	△ 8
産 婦 人 科	-	-	1	0.1	△ 1
婦 人 科	9	0.4	8	0.4	1
リハビリテーション科	33	1.6	28	1.4	5
放 射 線 科	53	2.6	50	2.5	3
麻 酔 科	72	3.6	80	4.0	△ 8
病 理 診 断 科	19	0.9	16	0.8	3
臨 床 検 査 科	3	0.1	2	0.1	1
救 急 科	30	1.5	35	1.8	△ 5
集 中 治 療 科	10	0.5	-	-	10
臨 床 研 修 医	110	5.4	118	5.9	△ 8
全 科	6	0.3	5	0.3	1
そ の 他	47	2.3	49	2.5	△ 2
不 詳	5	0.2	2	0.1	3

（注）集中治療科は令和 4 年調査から追加された分類項目

令和4年の人口10万対医師数は327.2人で、前回の314.2人に比べて13人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図4-1）。

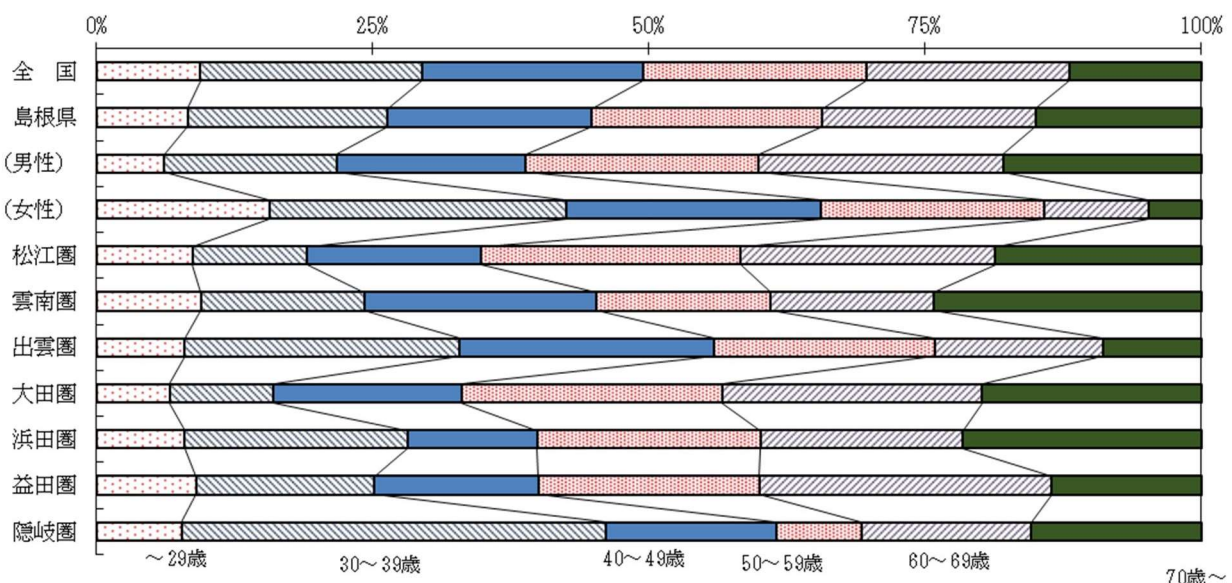
図4-1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では50歳代が20.9%、60歳代が19.3%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、30歳代から40歳代までの割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は60歳代が最も多く22.1%で、ついで50歳代が21.1%を占める。女性は30歳代が最も多く26.9%で、ついで40歳代が23.1%を占める。

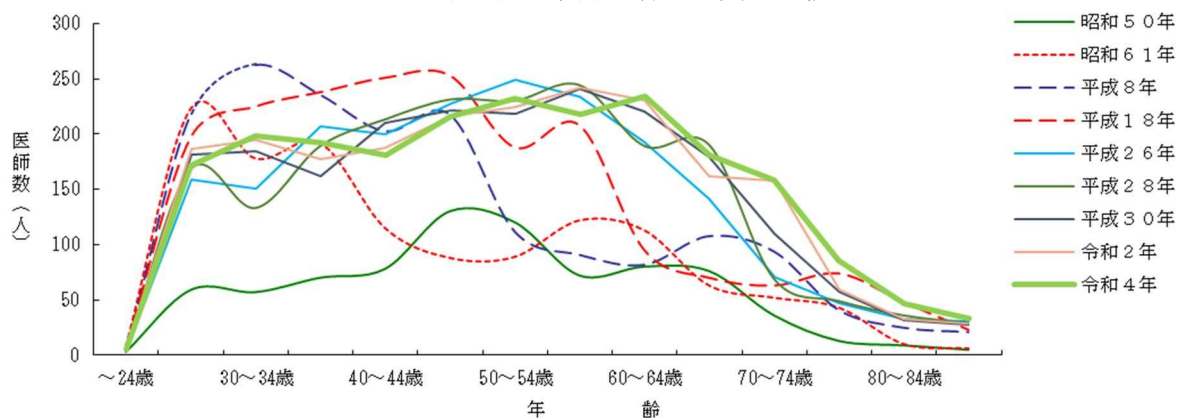
2次医療圏別に見ると、隠岐圏及び出雲圏で30歳代の割合が高い。50歳以上の割合は大田圏が最も高く67%を占めており、ついで松江圏が65.1%を占める（図4-2）。

図4-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45～49歳、昭和61年は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。令和4年をみると最も多い年齢階級は60～64歳となっている（図4-3）。

図4-3 医師の年齢構成の年次推移



2 歯科医師

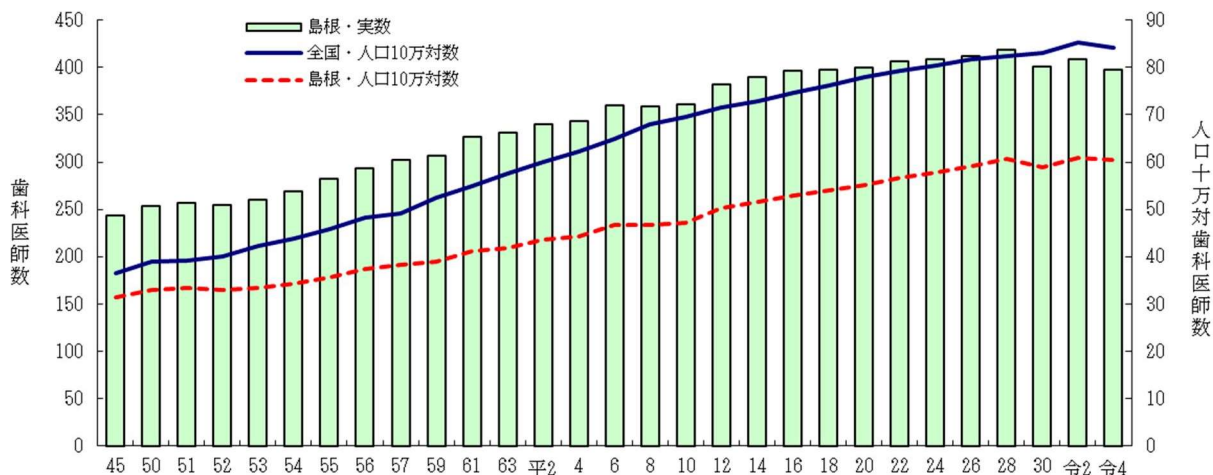
令和4年末現在の届出歯科医師数は398人で、前回調査時の令和2年から11人減少した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で94.5%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が57.8%で、診療所の勤務者が26.1%である。令和2年と比べると、病院の従事者は2人増加（構成割合は0.8%増加）、診療所の従事者は16人減少（構成割合は1.7%減少）した（表4-3）。

表4-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和4年	令和2年		令和4年	令和2年
総数	398	409	△11	100.0	100.0
医療施設の従事者	376	390	△14	94.5	95.4
病院の従事者	42	40	2	10.6	9.8
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	0	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	27	28	△1	6.8	6.8
医育機関附属の病院の勤務者	15	12	3	3.8	2.9
臨床系の教官又は教員	4	3	1	1.0	0.7
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	11	9	2	2.8	2.2
診療所の従事者	334	350	△16	83.9	85.6
診療所の開設者又は法人の代表者	230	236	△6	57.8	57.7
診療所の勤務者	104	114	△10	26.1	27.9
介護老人保健施設の従事者	-	-	0	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	6	3	3	1.5	0.7
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	2	-	2	0.5	-
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	-	0	-	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	4	3	1	1.0	0.7
行政機関の従事者	3	3	0	0.8	0.7
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	1	-	1	0.3	-
その他の者	16	16	0	4.0	3.9
その他の業務の従事者	4	3	1	1.0	0.7
無職の者	12	13	△1	3.0	3.2
不詳	-	-	0	-	-

令和4年の人口10万対歯科医師数は60.5人で令和2年の61人に比べて0.5人減少した。年次推移をみると、平成28年まで増加傾向であり、その水準を維持している。全国平均(84.2人)と比較すると低くなっている(図4-4)。

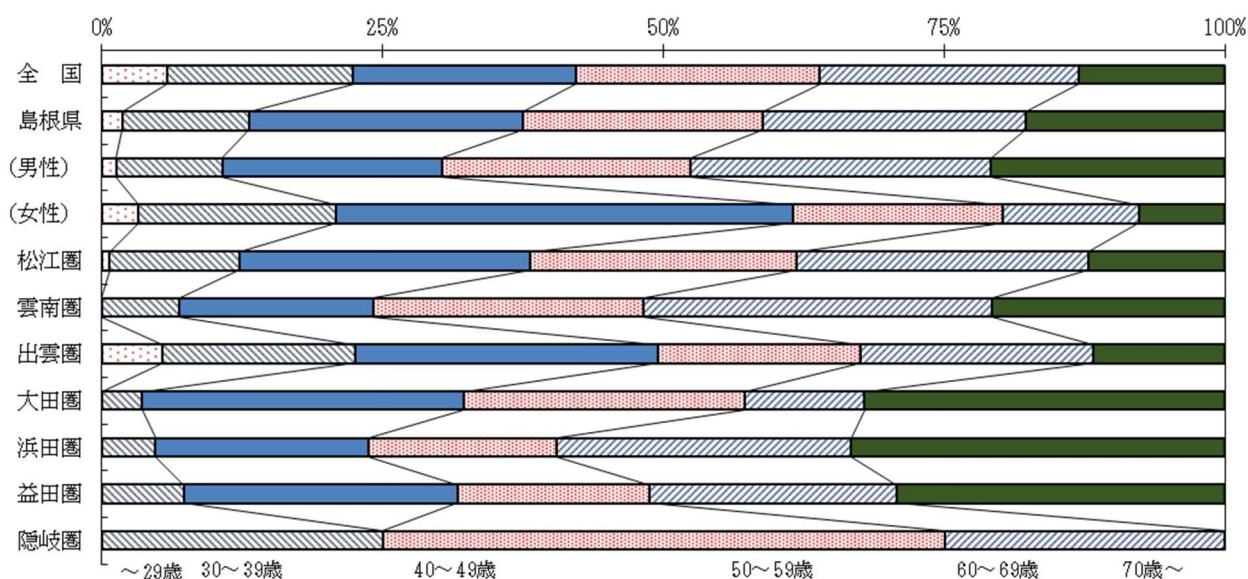
図4-4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～50歳代の占める割合が低く、60歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～40歳代が61.6%を占めており、男性は50歳以上が62.6%を占めている。

2次医療圏別にみると、雲南圏、浜田圏、益田圏では60歳以上が50%を超えている。(図4-5)。

図4-5 歯科医師の年齢別割合



3 薬剤師

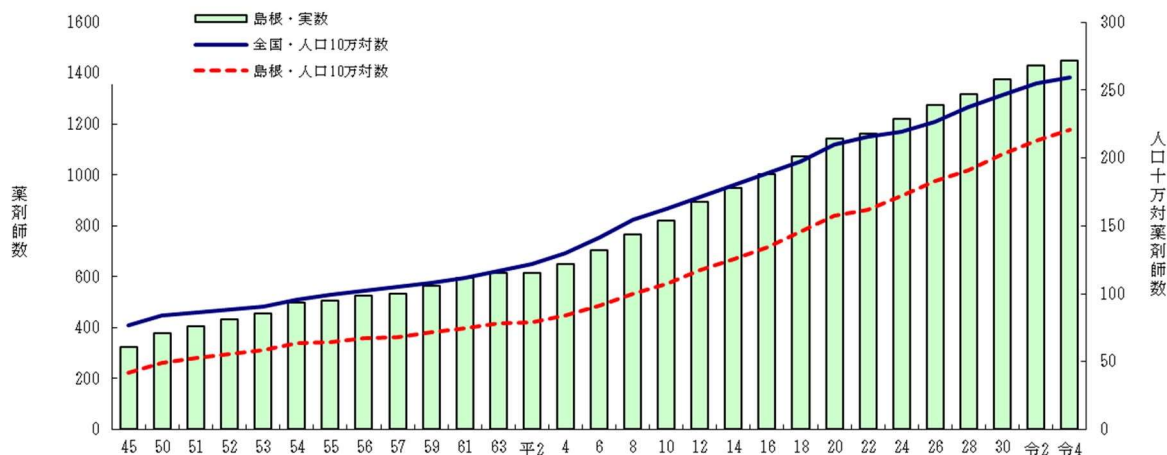
令和4年末現在の届出薬剤師数は1,451人であり、令和2年から22人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が908人（構成割合は62.6%）で、令和2年から23人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が339人（構成割合は23.4%）となっており、令和2年から1人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の86%を占めた（表4-4）。

表4-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和4年	令和2年		令和4年	令和2年
総 数	1,451	1,429	22	100.0	100.0
薬局の従事者	908	885	23	62.6	61.9
薬局の開設者又は法人の代表者	110	117	△ 7	7.6	8.2
薬局の勤務者	798	768	30	55.0	53.7
病院・診療所の従事者	339	338	1	23.4	23.7
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	328	324	4	22.6	22.7
病院・診療所でその他の業務に従事する者	11	14	△ 3	0.8	1.0
介護保険施設の従事者	15	15	0	1.0	1.0
介護老人保健施設の勤務者	11	11	0	0.8	0.8
介護医療院の勤務者	4	4	0	0.3	0.3
大学の従事者	9	13	△ 4	0.6	0.9
大学の勤務者（研究・教育）	7	12	△ 5	0.5	0.8
大学院生又は研究生	2	1	1	0.1	0.1
医薬品関係企業の従事者	63	63	0	4.3	4.4
医薬品製造販売・製造業（研究・開発・営業その他）	18	19	△ 1	1.2	1.3
医薬品販売業（店舗販売業）	22	18	4	1.5	1.3
医薬品販売業（卸売販売業）に従事する者	23	26	△ 3	1.6	1.8
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	28	28	0	1.9	2.0
その他の者	89	87	2	6.1	6.1
その他の業務の従事者	21	16	5	1.4	1.1
無職の者	68	71	△ 3	4.7	5.0
不 詳	-	-	0	-	-

令和4年の人口10万対薬剤師数は220.5人で、令和2年から7.5人増加した。年次推移をみると年々上昇しており、令和4年は令和2年に引き続き200人を上回ったものの、全国平均（259.1人）と比べると低くなっている（図4-6）。

図4-6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは40歳～49歳の24.6%、ついで30歳～39歳の24.1%、20歳～29歳ならびに60歳～69歳の14.4%となっている。

2次医療圏別にみると、20歳～30歳代が最も多いのは隠岐圏の48%で、ついで出雲圏で46%を占める。浜田圏では50歳以上の占める割合が47.9%となっている（図4-7）。

図4-7 薬剤師の年齢別割合

